

もいりや



英明



丸亀市議会議員

ニュース 第19号

令和7年12月 定例市議会報告

市民ファーストを心掛け、初心を忘れず働きます！！



一般質問 および 答弁 (12/4)

答 弁(都市整備部長・市長)

1. デマンドタクシー 実証実験について

質 問

公共交通の重要性は、地域住民の移動手段の確保、経済活動の活性化、環境負荷の低減、交通事故の減少、そして健康増進など多岐にわたる。特に、高齢者など自家用車を利用できない人々の生活を支える社会基盤として不可欠だと考える。

現在、郡家地区での2年間の実証実験に引き続き栗熊地区および富熊地区においてデマンドタクシーの実証実験が行われている。

- ① 現時点における利用者数、利用回数、利用目的・場所、利用者年齢、一人当たりコスト等について伺いたい。
- ② 成果検証および今後の見通しについて、考えを伺いたい。



- ① 9月から11月末までの3か月間の運行実績として、①利用者数は16名、②延べ利用回数は71回、③目的は70%が買い物、30%が通院、④年齢は70歳以上が86%、70歳未満が14%、⑤男女比率は60%が男性、40%が女性となり、一人当たりのコストは23,000円。
- ② 事業開始から3か月しか経ておらず、利用データも少ないことから成果検証は難しい。今後は、周知広報を十分に行い利用者の増加につとめ運行コストを低減し事業の継続につなげていきたい。

利用者数について、単純計算でひと月あたり約5人となる。令和5年度から2年間、郡家地区における実証実験の結果検証を踏まえた上での継続事業であり、開始3か月とはいえ十分な数字が求められるところである。なぜ、利用者が増えないのか十分に検討してほしい。

令和7年度 12月定例会議案

令和7年度12月定例議会が12月1日から18日までの間、開催され一般質問のほか37議案について審議され、いずれも原案どおり可決されました。また、請願1案件については否決されました。

【主な議案内容】

議案第105号 令和7年度丸亀市一般会計補正予算について

歳入歳出ともに8億7,995万6千円を追加し、予算総額は800億8,948万5千円となりました。

《主な内容》

- ① ふるさと納税事業 1億814万1千円 (寄付額の増額に伴う返礼品の調達費等)
- ② 飼い主のない猫の不妊去勢手術費補助金 100万円
- ③ 多様な農業人材支援事業補助金 275万6千円
- ④ 単独県費補助土地改良事業補助金 2,084万円
- ⑤ 道路補修事業費および除草業務委託料 2,850万円
- ⑥ 城南小学校長寿命化改修事業追加工事費 6,100万円
- ⑦ 物価高対応子育て応援手当 4億円 (国の総合経済対策に基づく事業)

議案第106号 モーターボート競走事業会計補正予算について

売上増加に伴い歳入歳出ともに129億4,180万円増額されました。

議案第109号 丸亀市インターネット上の誹謗中傷等の防止及び被害者支援に関する条例の制定について

議案第113号 丸亀市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について

議案第115号 丸亀市火災予防条例の一部改正について

ほか

令和8年度 予算編成方針について

丸亀市の令和8年度予算編成に向けて、事業内容やその経費について今後、精査されていきますが、その基本となる予算編成方針が示されました。

1. 本市の財政状況と今後の見通し

毎年度、売上げ好調なモーターボート競走事業から多額の繰入が続いており、一定の基金残高は、確保できているものの、この状況は決して恒常的なものではないことから経常的一般財源で賄える健全な財政運営が望まれる。

現在、公共施設の建設などによる投資的経費の増大から公債費を中心とした義務的経費が増大しており、財政の硬直性を示す経常収支比率はどんどん悪化し令和6年度決算では95.2%となった。

今後、計画している建設事業をそのまま遂行すれば、起債額がさらに増大し令和11年度には実質公債費比率が18%を超え、さらには令和13年度には財源不足を補う基金の枯渇も懸念される。

2. 今後の対応

- ① 投資的経費等は、優先度や緊急度を見極め、たちまち市民生活に支障を生じる事業を計上する。
- ② 経費の見積りについては、全てに対して説明責任が果たせるよう十分に調整した上で計上する。
- ③ 各種補助金については、費用対効果や補助率、限度額などを適正性を検証する。 など

本市予算額は毎年度、最高額を更新し続け一見、裕福安定財政の様に思われましたが、その舞台裏はかなり厳しく、我々議員においても真摯な対応が迫られております。

ご用の方は下記までご連絡下さい。

発行人 守家英明

〒763-0092 丸亀市川西町南858番地3

TEL 0877-28-5747 090-8692-0540



2. 「まちかど救急ステーション制度」について

質問

住民の救急搬送については、高齢化の進展や夏場の熱中症など様々な要因により本市においても2024年度の救急出動件数は過去最高の6,147件を記録し、救急医療の現場は逼迫している。法改正により2004年7月から一般市民によるAEDの使用が解禁され、多くの公共施設や事業所においてAEDの設置が進んでいる。

- 1 本市内におけるAED設置施設・事業所等の状況について伺いたい。
- 2 市内に設置されているAEDを活用した「まちかど救急ステーション制度」を導入してはどうか？

答弁(消防長)

- 1 AEDは学校関係を含む公共施設に123箇所、その他事業所には64箇所設置されているが、登録されていない公共施設や事業所もある。
- 2 現在、中讃消防指令センターでは、スマートフォンを介した映像通信システムを活用した「Live119」を試験運用しており、新年度から本格活用する。映像伝送だけでなくAEDの設置場所の通報なども行い、市民の応急手当の実施率向上に向けた取り組みを進めていきたい。

3. 外国人在住者について

質問

少子高齢化の進行に伴い過疎化が進行する全国各地においては、労働力人口の確保のため外国人労働者への依存が高まっており、特に建設業、農業、観光業を中心に様々な分野で外国人労働者の受け入れが積極的に行われている。

香川県においては、2015年が8,853人、2025年は、19,326人となっており、10年間の伸び率は2.18倍となっており中四国の中で最も高く、全国7位となっている。

- 1 本市における外国人在住者の推移について伺いたい。
- 2 受入れ並びに共生のための本市の対応について、伺いたい。
- 3 在住者の増加は今後も進行することが予想されるが、今後の方針について伺いたい。

答弁(市長公室長)

- 1 外国人住民は、41か国3,192人(令和7年11月1日現在)となっており、10年前の約1.9倍となっている。技能実習生や特定技能制度の活用による労働者のほか、定住者の家族の移住が主要因である。
- 2 多文化共生社会の実現を目指し、市国際交流協会と連携して外国人住民が安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。
- 3 「新かがわ多文化共生推進プラン」を踏まえ、外国人住民を単なる支援対象として捉えるのではなく、地域社会の担い手として地域活性化につなげるための取り組みを支援していきたい。

4. 学校図書館の充実について

質問

読書には、読解力や知識が身につくといった学習面だけではなく、論理的な思考力や集中力など、児童生徒がこれから生きていくために必要な力も身につけられる効果があり、想像力や表現力、コミュニケーション能力などもより豊かにする。

しかし、スマートフォンなどの普及により社会全体において読書離れが懸念されている。

この様な中、児童生徒にとって最も身近な読書環境が学校図書館だと考えられ、読書に親しめる環境づくりが重要視されている。

- 1 各学校図書館の蔵書数や司書の配置状況について、伺いたい。
- 2 読書離れに対する本市の対応について、伺いたい。

答弁(教育長)

- 1 蔵書数については、文部科学省が定める「学校図書館図書標準」に基づき整備しており、現在、小学校では2校、中学校では3校が未達成となっているが、充実に向けた取り組みを行っている。司書教諭、学校司書については、市内全ての小中学校において配置されている。
- 2 今年度より丸亀市電子図書館を学校でも活用できる環境を整えている。また、「朝読書」の時間の設定や図書ボランティア等による読み聞かせなどに取り組んでいる。更に図書ビンゴや図書クイズなど、児童が主体となる活動も行い啓発に努めている。

もりぶら ウォッチング



新しく市道が舗装されました



フン禁止看板を設置しました

まるがめボート場東駐車場内には新しく「外向け発売所」の建設が進められており、場内では、本場以外に全国10か所のボートレース場の舟券が購入できるとのことです。



今年10月、富山市において全国自治会連合会総会が開催されました。来年11月11日には、丸亀市において開催が予定されている様です。

来年9月6日のオープンに向け新市民会館(シアター・マド)の建設が進んでいます。



生涯学習センターの解体工事もほぼ終盤を迎えています。

中心市街地活性化について

車社会の急速な進展に伴い、住居や消費の郊外化が進んだ結果、本市においても中心市街地の空洞化が深刻化しています。

丸亀市の顔として中心市街地の再生に向けた取り組みは非常に重要だと思われ、来年9月の新市民会館のオープンに合わせた早急な対応が必要と考えます。

避難所におけるトイレ対策について

全国各地で地震、水害、火災など様々な災害が多発しており、場合によっては避難所生活を余儀なくされますが、被災者の方々へのアンケート調査では、「トイレ対策」が最も重要だという結果が出ている様です。

数日間であれば、飲食については何とか我慢できるものの排泄に関しては、どうしようもないとのことです。

簡易トイレの準備も事前対策のひとつとして重要になっている様です。